

読書感想画コンクールに 対する指導に向けて

公益社団法人全国学校図書館協議会

読書感想画の指導では、読書指導に力を入れることはもちろんですが、自己表現力を育て、豊かな心を育み、絵を描きたいと思う場面をイメージさせることが大切です。

常に心のイメージトレーニングができて、自分なりの表現を楽しむ習慣が育っていると、読書感想画を描くことについての抵抗が少ないと思います。

自由読書における読書感想画の制作では、絵を描くための本選びから描画材や場面・構図決定まで、一人ひとりが楽しみながら取り組むとよいでしょう。

指定読書については、担任の読み聞かせから始めると取り組みやすくなるでしょう。指定図書子どもたちに紹介し、読後に絵を描いてみたい本はどれかなという投げかけをして、子どもたちに興味・関心を促す工夫も考えられます。

読書感想画 指導の手順

①読み聞かせの後、感想を話し合う

登場人物の行動を友だちどうしで演じて遊んだり、続きを創作したりして本を身近なものにさせるなど工夫してみましょう

②各自で本を読み、描きたい場面やイメージの下絵、スケッチを描く

鉛筆だけでなく、割り箸ペンやスケッチペン、クレヨンなど好きな画材で自由に描くとよりイメージが広がります。イメージを言葉で表現する、キーワード化してもいいでしょう。一人ひとりのイメージが消えないよう配慮し、さらに思いが膨らむように、自分と対話する時間を設けることも効果的です。また、イメージは浮かんだけれど、思うように描けない子どもには、そのわけを聞いて描き始めるような手立てを考えましょう

③構図や下絵がまとまったら、楽しい色使いで彩色する

児童それぞれの色使いを意識しながら、その子なりの思いで彩色します。スタンプングやコラージュ等のいろいろな技法を紹介することで、自分の思いをどの技法であればうまく表現できるか、適宜声をかけながら制作させていきましょう

④作品を鑑賞し合う（見せ合う）

制作途中で互いの作品を鑑賞し、よいところを褒めたりもっと工夫したらよいところを励まし合ったりすることで、より意欲的に制作に取り組む姿勢が見られます。また、友だちの作品のよさを知ること、自分の表現に生かし、さらに取り組もうとする意欲をもたせることにつながります

⑤作品を完成させる

本と向き合い、自分と対話し、思いを表現する喜びを感じさせましょう。作品制作をとおして、一生懸命に時間をかけて描いた満足感や達成感を味わわせましょう

以上のような指導をとおして教師は、子どもの感動、喜び、驚きなどに共感し、豊かな感性を見つめ、子どもが楽しんで読書感想画を描く心を育てることが大切です。その一助として読書への関心を高め、豊かな人間性を培っていききたいものです。

== 中学校・高等学校 ==



「読書感想画」とは、読書を通じて得た感動を、その生徒なりのイメージをもとに「絵画」として表現することです。素晴らしい読書体験から得たさまざまな感動や印象、イメージの広がり、思考の深まりなどをもとに自分だけの絵画世界をつくり上げていくことで、より深い読書体験を得ることになります。生徒の読書活動をより推進させるためにも積極的に取り組みましょう。たとえ一人からの応募であっても可能ですので、図書館担当、国語科担当、美術科担当の教師、部活動顧問らが互いに協力し合って、「読書感想画」の制作を生徒に勧めてください。

読書感想画 指導前の Check Point

- ☐ 応募のポスターを掲示しましょう
- ☐ 指定図書を購入しましょう。できれば全部読んで自分に合った本を選ぶようにしましょう
- ☐ どの本で感想画を描くか、本と向き合い、考えさせる時間を取りましょう
- ☐ 授業でも個人でも応募できる体制を整えましょう
- ☐ 美術科担当の教師へ理解と協力を求めましょう
- ☐ 生徒の表現方法にあった用紙・画材を準備しましょう
- ☐ 過去の受賞作品を鑑賞し、「読書感想画」を描こうという意欲を持たせましょう

読書感想画 指導の Point

- 十分に本を読み込み、自身と対話する、深まりのある読書活動がベースとなります
- 美術科担当の教師にも協力を求め、自分の思いや考えがどうすれば表現できるか、イメージを絵や言葉（キーワード）で表現し、イメージスケッチをもとに構図を工夫するなど、下絵の段階でよく練りましょう
- 生徒の思いや考えを表現するのに適切な大きさや材質の紙を用意し、さまざまな画材の特質や絵画技法を紹介し、表現方法を工夫しましょう
- 本を選んだ理由や描いてみたい場面イメージや構図を話し合い、交流させるとより自分のイメージが具体化するでしょう
- 本の挿絵や表紙の絵、ポスター、映画、マンガ等の場面を真似ていないか、生徒オリジナルの作品となるよう、著作権へも配慮しましょう
- 着色や仕上げの各段階でも、美術科担当の教師に協力を得られる時間を設けましょう
- 自分の思いやこだわりが伝わる作画感想となるよう工夫させましょう

基本は、生徒に制作のための時間を与えることと、困ったときに相談にのることのできる体制を学校としてとることが大切です。深まりのある読書があって初めて魅力ある読書感想画が誕生します。美術科担当教師の協力が得られない場合でも、生徒が制作をしている途中段階で絵を見ながら、じっくりと生徒と話して褒め、励ましていくことが大切です。

なお、詳しい指導の手引きとして、当会より『読書感想画の指導』（税込価格 2,776 円）を刊行しています。参考図書として活用してください。

